

7・3 作文メモ

要約

筆者は小学3年の頃に、虫かごの中でアオムシがキャベツの葉を凄まじい勢いで食べながら、大きなフンを落としていくのを感じながら眺めたことがある。葉を食べるということは栄養価の低い食べ物を大量に摂取することであり、飛び回るのには大変不都合である。なので昆虫は、飛ばない幼虫の時代に草を食べ、飛ぶ成虫に変態すると、吸収が良い密や樹液を吸う。昆虫の生活はまさにサイズと密接に関わっているものなのである。

2段落

- ・人間の話
- ・赤ちゃんの頃はミルク
- ・どんどん大きくなっていていろいろなものが食べれるようになる。

3段落

チョウのように変態して食べるものが変わる昆虫

- ・カブトムシなど

4段落

・「二兎追うものは一兎も得ず」で、食性と運動性の利点を両方とも手に入れようとするとう結局両方とも手に入れることができないので、どちらかに絞ったほうがよく場面によって切り替えたほうが良いということがわかった

